



[vol.009]

JET SKI®



川崎重工が世界で初めて開発し、
まったく新しいレジャースタイルを提案した「JET SKI (ジェットスキー)」
それは、新しいライフスタイルを創造する乗り物だった。



1995 900ZXi

JET SKIとしては初めて3気筒エンジンを搭載したラグジュアリーモデル。最高出力100馬力。船底も全面塗装され、レッドとライムグリーンの2カラーが用意された。



1982 JS550

その運動性能の高さからJET SKIの世界的なブームの火付け役へ。1人乗りの立ち乗りタイプで、世界20万台以上を販売した不朽のベスト&ロングセラーモデル。

1999 Ultra150

JET SKIの2ストロークエンジン史上最強の145馬力を発生する強力パワーユニットを搭載した2シータースポーツ。強力な加速と水面を切り裂くような旋回性能はまさに異次元のものだった。



2000 JET SKI 1100 STX D.I.

98年モデルから適用された米国環境規制に対応すべく開発された2ストローク、ダイレクト・インジェクション（燃料直噴方式）エンジンの搭載モデル。規制値を大きくクリアし、既存機種種の販売継続にも貢献した。



2007 JET SKI ULTRA 250X

水冷4ストローク4気筒エンジン（1498cc）に、低回転域から高い過給圧を発生するルーツ式スーパーチャージャーを搭載。最高出力は245馬力。3人乗りのウルトラスポーツモデル。



1 972年10月、米地方紙『サン・ディエゴ・ユニオンズ』に次のような記事が載った。「その小型艇にまたがり、バイクのようなハンドルの後ろに陣取り、新型のウォータースクーターのように水面を進む」。これが米発明家ジェイコブソンのアイデアから川崎重工が試作したジェットスキーだった。

翌73年には世界初となる商用機「400」を発売。アメリカを中心にPWC（パーソナル・ウォーター・クラフト）と呼ばれる新市場が誕生する。水の上を自由に動き回れるPWCは、またたく間にレジャーとして定着し、早くも78年には競技団体が設立された。川崎重工は「JET SKI」を商標登録。当初は、立ち乗りタイプが主流だったが、90年代になると座ったまま運転するタイプ（ランナバウト）へとシフト。初号機は排気量398cc、26馬力のスノーモービルのエンジンを流用したものだったが、90年代以降は厳しい環境規制をクリアしながら大排気量・高馬力化が進展。今や4ストローク1498cc、310馬力のエンジンが主力だ。

ジェットスキーの歴史や生活への影響を分析した著作のタイトルの副題に、『Life, Liberty, and the Small-Bore Engine』とあるように川崎重工のジェットスキーは、新しいライフスタイルを創造したのである。

※「JET SKI」、「JET SKI ULTRA」は、川崎重工工業株式会社の登録商標です。